ISSN　1883−4213
平成 31（2019）年 3 月 31 日
（うんてい復刊）第 11 号

芸亭（うんてい）

vol.11

Nara Prefectural Library and Information Center

奈良県立図書情報館

さまざまな本たち

千田　稔

一冊の本を手許に置いて読むのが普通である。私のような仕事をしている者は、関連するテーマの本を机の上に次から次へと並べていく。知らない間に机は本で埋まり、本のビルとなる。こんなのは読書といわないと思う。

他者から見れば、読んでいるようだが、本人は、文字を見ているのだ。今、書いていることに無関係な文章は、見捨てるのだ。でも、それを書いた著者には失礼なことだと心得ていることは、許していただきたい。

それとは逆に、私の仕事場で礼儀正しく書棚に並んでいる本のコーナーがある。この仕事に駆け出したころ、なけなしの金を払って買った本たちである。今となっては、研究も進んでいて、その本たちの出番はない。私は、文学書はそんなに多くもっていないが、京都で生活をはじめたという、単純な理由から、川端康成の『古都』を買った。双子の姉妹の話しだったが、ストーリーは忘れてしまった。むしろ京都の名所案内として読んだ記憶がある。ところが、最近、川端康成が、この作品を睡眠薬を飲みながら書いたことを知った。書く前に、内容も定めていなかったともいう。何者かに誘われて川端の原稿用紙が埋まっていったのだ。鬼気迫る執筆風景を想像しながら、私は仕事場に入る。

Contents

巻頭言 さまざまな本たち …… 1
「災害防災文庫〜過去の歴史から学び、未来へ備える〜」の設置について …… 2
図書展示の新たな演出と展開 …… 4
「バリアフリーコーナー」の紹介
イベントでのよみきかせについて …… 6
セミナーの開催について …… 7
出前図書情報館 …… 8
平成30年度イベント・展示より …… 9

題字：天理大学附属天理図書館蔵「石上宅嗣卿顕彰碑」より

写真：「トショカンノクリスマス」（2018.12/15[土]〜16[日]）関連展示『クリスマスノ星』。奈良の椅子張り工房「宇宙椅子」と奈良のギャラリー「日＋月＋星」が企画＆制作。無数の星のクッションでエントランスを飾りました。

災害防災文庫

～過去の歴史から学び、未来へ備える～

の設置について

平成30（2018）年8月、当館3階に「災害防災文庫」を開設しました。これは、近年の東日本大震災や紀伊半島大水害、大阪北部を震源とする地震、「平成30（2018）年7月豪雨」等によって災害対策の重要性をあらためて実感させられ、さらには目下発生が危惧されており奈良県に直接影響を及ぼすと言われている南海トラフ地震も踏まえ、奈良県の中核的な図書館として、また地域に根ざした図書館として、防災や減災を考える上で有用な資料の整備が必要であるとの考えに基づいたものです。

このことから「災害防災文庫」では、災害や防災に関する資料を「災害の歴史」「災害に向き合う」「備える～もしもの時、対策は万全？」「奈良県と災害」という４つのテーマに分けて提供しています。このテーマのうち「災害に向き合う」には、主に東日本大震災等の記録及び復興に関する資料、また「奈良県と災害」では、奈良県の災害史や奈良県内市町村のハザードマップ等を収集し、災害や防災に関する意識を高めることができるように定期的にテーマを設定したミニ展示を行い、自治体等が発行しているパンフレット等も幅広く収集し提供しています。

災害防災文庫（コーナー全体）

奈良県内ハザードマップ等

整備計画

当館では、平成２８年度より「災害防災文庫」構築の準備を行い、防災や減災を考えるうえで有用な資料を幅広く収集・整備してきました。

「災害防災文庫」で整備した資料は、市販されている図書以外に専門機関等が発行した報告書等があります。特に非売品である奈良県関係資料や官公庁出版物、研究機関が発行する報告書類などは有用かつ貴重な資料で、その整備は当館の課題である蔵書不足を補うことはもちろんのこと、コレクションの充実という意味でも欠かせないものとなっています。

関連イベント

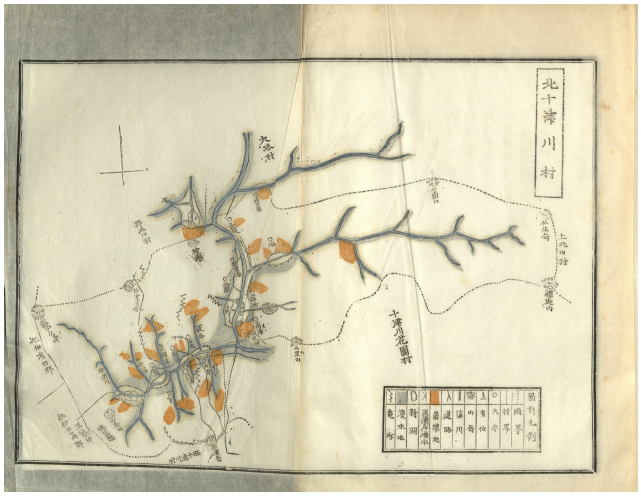
災害防災文庫開設記念として、平成30（2018）年8月19日に「～築・土・構・木～奈良を襲った大水害の記憶と教訓」と題して、昭和57（1982）年8月に奈良盆地を襲った大和川大水害、奈良盆地特有の河川の成り立ちや地域の変遷などを踏まえた都市部における総合的な治水対策、平成23（2011）年9月の紀伊半島大水害、自然豊かな山間部である奈良県南部東部地域に大きな被害を与えた土砂災害についての現場での体験および現在の復旧状況について、前 奈良県まちづくり推進局長の金剛一智氏に講演をしていただきました。

この講演の中で、災害の多い国土に住まう我々にとって災害は「忘れた頃にやってくる」のではなく「自分のところへも必ずやってくる」という意識を常に持って生活することが大事であり、２つの大水害を例に、地域で起こった災害を忘れずいつまでも記憶することが、私たち自らの防災意識を高めることにつながると語られました。

災害防災文庫開設記念講演会と連動した企画として、図書展示「明治22（1889）年の十津川大水害と北海道移住」を開催しました。明治22（1889）年8月、台風により吉野郡一帯が記録的な豪雨に襲われ、十津川郷では壊滅的な被害が発生し、死者249人、流失・全壊戸数565戸を数える未曾有の大水害となりました。これをきっかけとして、同年10月には生活の基盤を失った被災者2,600人以上が北海道に移住し、現在の新十津川村が誕生しました。平成31（2019）年に130年の節目を迎えるにあたって、当館が所蔵する『明治廿二年吉野郡水災誌, 11巻』や奈良県庁文書『明治三十三年　北海道移住』とともに奈良県防災統括室『歴史から学ぶ奈良の災害史』より抜粋した「十津川大水害」や「奈良県の災害史」のパネルを展示し、あらためて被害状況を知り、学び、考える機会になったと思います。

この移住をテーマとし、新十津川を舞台とした『新十津川物語』は、ＮＨＫでドラマ化もされています。

『明治廿二年吉野郡水災誌』



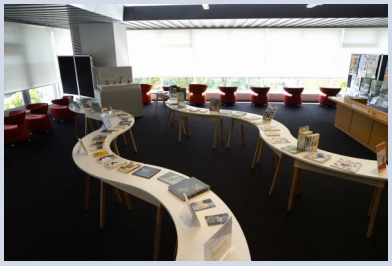
災害防災文庫を設置し、ミニ展示や災害・防災に関する資料をまとめて提供することにより、広く災害を知り、防災・減災を考える機会を増やし、先人たちが残した災害経験から培われた災害の記録と災害文化の記憶を語り継ぎます。

（西川　慶子）

図書展示の新たな演出と展開

「Like a Bird ～愛鳥週間と図書情報館の身近な鳥たち～」

（4月28日～6月28日）　　3階　ブリッジ・ブラウジングコーナー



利用者参加の取り組みとして、期間中に「鳥が登場する好きな本」と「図書情報館周辺で見た鳥」を館内とメールフォームで募集し、展示の感想などを書いてもらう「さえずりノート」も設置しました。

また、外部との連携を積極的に行いました。まず薮内正幸美術館（山梨県北杜市）と福音館書店の許諾を得て、ポスターやカテゴリーの見出しに薮内正幸氏のイラストを使用。同美術館と日本野鳥の会奈良支部、サントリーホールディングス株式会社からはパンフレットを提供してもらい、展示スペースで配布しました。あかひげ工房からは、万葉集に詠まれた鳥のフィギュアをお借りして展示し（写真）、三菱電機エンジニアリング株式会社から借りた「超指向性スピーカー（超音波によってビーム状の細いエリアに音を流せるスピーカー）」で、ブラウジングコーナーの天井付近を中心に野鳥の鳴き声を流しました。音に関する苦情は一切なく、静かに耳をすます方の姿がときおり見られ、「本当に鳥がいるのかと思った」「耳に心地良い」などの感想も寄せられました。

とかく静寂を求められがちな図書館ですが、自然音であればＢＧＭ代わりに良いかもしれません。

３階ブリッジを中心に館内各所で実施している図書展示。テーマにちなんだアイテムを併せて展示するなど、以前から工夫をしてきましたが、昨年度からはさらに充実させ、リンゴ箱を活用したり司書が解説パネルを作成したりと、より一層の充実を図っています。今年度も様々な試みを行いましたのでご紹介します。

「調べるを極める！～情報とうまく付き合おう～」

（8月1日～8月30日）　2階　情報資料スペース

図書展示関連イベントとして、２階セミナールームにおいて「図書館でパソコンを使って調べてみよう！」を実施しました。展示を担当した司書が講師となり、調べものに役立つウェブページや新聞記事データベースの使い方を紹介しました。

※ 7ページで詳しく紹介しています。

「大和から奈良へ～150年の記憶とつながり～」

（9月1日～10月30日）　　館内各所

普段は２階と３階で別のテーマによる図書展示を行っていますが、このテーマでは両方の階を使い、さらに戦争体験文庫の展示テーマも統一しました。ガラスケースも２０台以上並べ、貴重書や公文書、引札や大隈重信の書簡を陳列するなど、かつてない広い範囲の展示でした。また、担当司書たちがカテゴリーごとに解説文を書き、約５０枚のパネルを作成しました。

この展示では、当館ウェブサイトにある「まほろばデジタルライブラリー」から、明治期に計画され幻に終わった吉野鉄道の路線計画図や車両図面を大判プリンターで出力し、パネル化しました。まさに、情報編集ができる当館ならではの演出と言えるでしょう。さらに、関連イベントとして奈良大学の三木理史教授を講師に、奈良の鉄道史に関する講演会を実施しました。

「図書情報館の書評２９６（ぶくろ）～レビューで選ぶ。開いて出会う。」

（1月5日～2月17日）　３階　ブリッジ

当館のメールマガジンや雑誌『月刊大和路ならら』に掲載した司書による書評から２９６タイトルを選び、書名や著者名などを伏せた書評本文を貼った袋に入れて並べました。書評の内容や手にとって感じる大きさ・重さから、書名や装丁を想像しつつ借り、開封して図書と出会っていただくという趣向です。

普段から貸出冊数にこだわらない当館では、図書展示でも閲覧による出会いを演出することに主眼を置いていますが、今回は貸出して初めて意味をなす展示でした。そういう意味で、書評テキストの力が試されるという、執筆した司書にとってはドキドキものの取り組みでした。

当初、６００字前後もある書評を読んでもらえるかどうか不安でしたが、期間中は書評を読んでいる方の姿が頻繁に見られ、のべ３８３冊が借りられました。１日あたりの貸出冊数は１０.３５冊で、昨年度の図書展示における平均４.９冊（最高９.９３冊）と比較しても多いことから、予想以上に楽しんでいただけたと思っています。

「タラブックス展 インドのちいさな出版社とゆかいな本づくり」

（11月1日～12月27日）　３階　ブラウジングコーナー

３階ブリッジを会場に開催したタラブックス展に合わせ、司書がタラブックスの絵本や活動からイメージするテーマを挙げ、それに関するパネルを作成し、関連図書と一緒にブラウジングコーナーに並べました。

エントランスホールや1階交流ホールで実施した関連イベントにもアシスタントスタッフとして参加するなど、同じテーマで館内全体に司書が関わった展示となりました。外部団体との共催展示に司書が深く関わったのも、初めてのことでした。

「Carpe diem（カルペ・ディエム）～今そこにある未来～」

（2月23日～4月7日）　３階　ブリッジ

テーマ「Carpe diem（“その日を摘め＝今を楽しめ”を意味するラテン語）」に合わせて「時間」を感じる写真を展示スペースに配置し、イメージを使った空間演出を図りました。

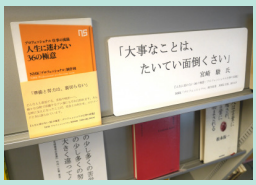
また、テーマを念頭に集めた様々な言葉を大判プリンターで紙に出力し、吹き抜けを囲むように吊り下げたところ、吹き抜けの下から、あるいは大階段をゆっくり上りながら言葉たちを眺めている来館者の姿が日常的に見られました。２階の図書展示「言葉の贈り物」とのつながりを持たせることも狙いの一つでした。

なお、この風景動画は当館のフェイスブックで公開しています。

「言葉の贈り物」

（2月23日～3月28日）　２階　情報資料スペース

司書が書いた紹介文や印象に残った部分を印刷し、帯にして図書に巻いたり吹き出し型ＰＯＰにして掲示したりしました。



これまでも、テーマやカテゴリーについての紹介文や説明文をパネル掲示するなどしていましたが、今回はより具体的に図書１冊ごとの魅力を伝える取り組みでした。昨年度も栞にして図書に挟んだことがありましたが、帯にすることで視覚的にもわかりやすくなりました。

人はできることがあって初めてしたいことが見つかるといいます。私たち司書も、実践からヒントを得ながら新たな取り組みにつなげています。今後も新たな出会いを生み出せるよう、工夫していきます。

（中西　玄）

「バリアフリーコーナー」の紹介

平成31（2019）年2月1日に、２階の閲覧室に「バリアフリーコーナー」を設けました。障害やそのほかの理由で、通常の活字の印刷物をそのまま読むことが困難な方にも利用していただきやすい資料を、１カ所に集めています。

バリアフリーコーナーには、大きな活字の大活字本、音声で聞くことができるＣＤブックや、点字の本・雑誌・新聞があります。ほかにも、あまり知られていない種類の資料がありますので、それぞれの特徴をご紹介いたします。

ＬＬブック（えるえる）

やさしい文章でわかりやすく書かれた図書。写真、イラストやピクトグラム（視覚記号の一つ）なども用いられます。

【文字】 【ピクトグラム】 【写真】

ほん
本

デイジー図書

録音テープに代わるものとして開発されたデジタル図書。見出しやページの検索ができます。

専用の再生機やパソコンで利用できます。

マルチメディアDAISY（でいじー）

音声と一緒に文字や画像が表示されるデジタル図書。読み上げている文字部分がハイライト表示されるなどの機能があります。

パソコン等で閲覧用ソフトを使用し利用します。

これまで、これらの資料は種類や内容によって別々の場所に置いていましたが、バリアフリーコーナーへまとめて置くことにより、探していただきやすくなりました。障害者サービスの案内や、関連するチラシなどもあわせて置いています。今後はこれらの資料を増やしていくとともに、みなさんに広く知っていただき、当館の障害者サービスをより充実させていきたいと思います。

（川村　殉子）

イベントでのよみきかせについて

妖怪マーケットおはなし会

平成30（2018）年9月1日、2日に開催したイベント「妖怪マーケット」にておはなし会を行いました。当館では、司書によるよみきかせをしていませんが、イベントにあわせておはなし会をすることで、子どもへの読書推進につなげようと考えたものです。

会場に「おはなし会エリア」を設置し、妖怪・お化けが出てくる本のリストも作成しました。リストは、興味をもった子どもへのパスファインダーとなることを想定しています。

おはなし会には多数の利用者にご参加いただきました。読んだ絵本は『三びきのやぎのがらがらどん』など、妖怪やおばけが出てくるものばかりです。皆楽しいお話ですが、中にはお話に首をすくめる子の姿も・・・。ただし、会場は混雑しましたので、落ち着いた環境を整えられなかったのが残念です。今後は、会場を分けるなどの対策が必要でしょう。

平成30（2018）年11月18日のトークイベント「タラブックスの本づくりを語る」では、タラブックスの絵本『つなみ』のよみきかせを行いました。『つなみ』はインドの伝統的な語り部「ポトゥア」が読み語る絵巻物から生まれた絵本です。絵本は蛇腹折の形態ですが、元は絵巻物状のものであると聞いています。ならば本来の雰囲気を伝えようと考え、許可を得て絵巻物状に印刷した『つなみ』を用いました。

事前に「ポトゥア」が読み語りをする映像を見ましたが、さすがに独特の節回しは真似できません。しかし、本来の雰囲気をイベント参加者にお伝えできたと思います。（インドの民族衣装を纏えばさらに雰囲気を出せたかもしれません。）

当館は市町村立図書館との役割分担のため、児童サービスに積極的ではありませんが、イベントにてよみきかせすることにより、子どもの来館を一過性のものとせず、利用者として継続的な来館につなげていくことを考えています。また今後の図書館では、大人が絵本を楽しめる環境づくりも必要になってくるでしょう。今回は試験的な取り組みでしたが、今後も続けていくことが成果につながると考えています。

（上田　裕介）

セミナーの開催について

online database seminar

当館では、辞書・辞典類の横断的な検索や、新聞や雑誌記事の検索などを行う事ができるオンラインデータベースを館内のPC利用席で提供しており、それらを知り使いこなしていただく機会として、年に1～2回セミナーを開催しています。

今年度は、まず平成30（2018）年8月5日に図書展示「調べるを極める！～情報とうまく付き合おう～」の関連セミナーとして、「図書館でパソコンを使って調べてみよう！」セミナーを開催しました。初めての試みとして当館職員がセミナーの講師を務め、当館のウェブページと新聞データベース「聞蔵Ⅱビジュアル」の活用方法をご紹介しました。

当館のウェブページには、蔵書検索だけでなく、まほろばデジタルライブラリーなど調査研究に有用なコンテンツがあります。さらに、新聞データベースについてもよくお問い合わせがありますので、併せてご紹介することで、調査研究に役立てていただければと考えました。

「図書館でパソコンを使って調べてみよう！」
セミナー風景

当日は、一般利用者14名が参加し、1人1台のパソコンを使った実習形式で行いました。当館のウェブページの紹介を40分程度、その後「聞蔵Ⅱビジュアル」の紹介を1時間20分程度行い、当館職員が適宜パソコン操作のフォローに入りました。シニア層が多く、パソコンに不慣れな方もたくさん見受けられましたが、熱心に聴講し、演習に取り組んでおられました。

参加者の感想としては、「わかりやすかった」「有益な情報が得られた」など、おおむねご好評をいただけました。普段利用者からお問い合わせを受けている当館職員だからこそお伝えできる内容があったのではと思います。

データベース活用講座
「暮らしに役立つ法律情報」セミナー風景

また、平成31（2019）年2月16日にはデータベース活用講座「暮らしに役立つ法律情報」を実施しました。法律関係の調査に非常に有用なデータベース「Westlaw Japan」の提供元ウエストロージャパン株式会社から講師を迎え、データベースを使うことで暮らしに役立つ法律情報の取得がより確かなものになるよう、「Westlaw Japan」の基本的な検索や活用方法についてお話しいただきました。

カリキュラムは、概要説明とパソコン操作を伴う実習が1時間10分、質疑応答が20分の計1時間30分で、具体的な法律問題を例に挙げ、法律の調べ方のコツやデータベースで検索する用語の選び方、収録されている記事の特性などを解説していただきました。実習の途中でも質問が挙がるなど、参加者は積極的に受講しておられました。

どちらのセミナーでも、終了後に個別に質問される方がいらしたり、館内のPC利用席でデータベースを使用して質問されたり、セミナーに参加されなかった方から配布資料を求められたりと、関心の高さがうかがえました。参加してくださった方には、当館のウェブページとデータベースをより身近に感じて、使っていただけたのではないでしょうか。

データベースセミナーは今後も続けていく予定です。皆様のご参加をお待ちしております。　（加藤　由美）（辰巳　理紗）

「聞蔵Ⅱビジュアル」は、朝日新聞のデータベースです。明治12（1879）年の創刊号から今日までの紙面から約1500万件の記事・広告が検索できます。各地域面の内容も収録し、人物データベースや現代用語事典『知恵蔵』も検索可能であり、有効な調査ツールです。

「Westlaw Japan」は、判例、法令、審決、雑誌記事本文等を収録しており、それらを一括で検索することができます。また、戦前の判例から最新判例まで、約28万件以上（2018年8月現在）を収録し、判例全文及び簡潔で正確な要旨、出典、評釈、参照条文など付加価値の高い関連情報を編集しています。また、判例タイムズなど、教育、研究に必要な雑誌記事を収録しており、法律関係の調査に有用なツールです。

出前図書情報館

吉野町、十津川村、御所市の3地域で開催

平成30（2018）年が明治改元（1868年）から満150年の年に当たるということで、全国各地で明治を振り返る催しが様々に開催されました。当館でも、県内の市町村と連携し、明治期から現代へと繋がるそれぞれの地域に起こった特有の変化や出来事をテーマに、改めて明治期を振り返り再考していただける機会となるべく、年間を通して各地で、記念講演会を開催し、その場所で「出前図書情報館」を設置しました。

「出前図書情報館」は、奈良市内の図書情報館の建物を飛び出し、講演地にミニ図書情報館を届けるという取り組みです。実際に、司書が選んだ図書を持参し、その場で利用者登録から貸出まで行います。

今回は、主に奈良県南部に出向きました。70数万冊ある蔵書の中から、テーマに合った図書を100冊前後選び、パソコンと図書情報館のポスターや利用案内の資料、利用者カード登録のための申込書等を持って、数名の司書が現地に行きました。普段は遠くてなかなか図書情報館まで足を運べないという高齢の方から、図書情報館の存在すら知らなかったという方までいらっしゃいました。講演の前後に図書を手に取って読んだり、利用者登録をされたり、すでにカードをお持ちの方はその場で貸出の手続きをされたりして、「出前図書情報館」をそれぞれにご利用いただけました。初めての方には、図書情報館の紹介ができ、次の利用と広報につながったと思います。司書が直接現地に出向いたことや、テーマに見合った図書を提供できたことで、来場者にはより関心が強まり身近に感じてもらえたのではないでしょうか。また、現地に行くことで私たち司書もその地域の現状や情報を生身で受け止め、関心や理解が深まったと感じました。

吉野町での様子

十津川村での様子

こうした取り組みは、県内の隅々まで図書情報館の存在と利用価値を皆様にお伝えできる機会と捉え、今後もテーマを変えて引き続き実施していきたいと考えています。

平成30年度 出前図書情報館の記録

◆ **吉野町**
出前展示図書：108冊
利用者登録：2名　　貸出図書：1冊

◆ **十津川村**
出前展示図書：90冊
利用者登録：2名　　貸出図書：7冊

◆ **御所市**
出前展示図書：71冊
利用者登録：6名　　貸出図書：9冊

（松村　順子）

平成 30 年度イベント・展示より

開催した展示＆イベントの中からピックアップしてご紹介します。

■Book market

さくらマルシェ 2018

奈良市中心部を南西に向かって流れる佐保川。奈良市法蓮町の下長慶橋から同市杏町の大和郡山市境までの区間約 4.5 ㎞の両岸には、ソメイヨシノ約 1000 本の桜並木が続いています。佐保川沿いに位置する当館では、美しい景観と、もっと館に親しみを感じていただきたいとの思いから、28 年 4 月より「さくらマルシェ」を開催しています。3 回目の今回は、館正面玄関前にて「奈良のうまいものマルシェ」を「奈良のうまいもの会」の協力により行いました。また、2F エントランスでは、大和郡山市の書店「とほん」の企画協力で「さほがわ春のほん祭り」を開催し、出版社、新刊書店、古書店、飲食店が出店しました。合わせて、特定非営利活動法人「おてらおやつクラブ」による「古本勧進」が行われ、人文系私設図書館ルチャ・リブロ（東吉野村）によるネット配信ラジオ「オムライスラジオ」の特設スタジオも開設されました。

「さくらマルシェ 2018」会場のようす

＜開催日時＞
4 月 7 日 [土]8 日 [日] 10:00—16:00
＜場所＞
2 F エントランス
＜企画協力＞
とほん

■Screening

奈良 365 の季節
映像作家保山耕一上映会

保山耕一さんは、奈良の自然風景や文化財をモチーフにした映像作品を撮り続ける映像作家です。当館では、保山さんの作品群の資料価値を鑑み、作品提供を依頼。平成 30 年 5 月から 2F 東側正面入り口に設置の 200 ㌢スクリーンにて常設上映を開始しました。上映会は、このことを記念し開催しました。

上映会冒頭、千田稔・図書情報館長が「保山さんの映像から受ける印象は『美しい』を超えた世界『浄らかな』世界」と挨拶をしました。続いて「佐保川の春」「神々の夜明け」「映像詩・春日大社」などの作品上映や、岡本彰夫・奈良県立大学客員教授と保山さん、司会の大垣知哉さん（シンガーソングライター）とのトークが行われ、集まった 400 人の観客は大いに盛り上がりました。

保山耕一さん（写真中央）

＜開催日時＞
5 月 26 日 [土] 14:00 開始（13:00 開場）
＜場所＞
交流ホール
＜登壇＞
保山耕一（映像作家）
岡本彰夫（奈良県立大学客員教授）
司会：大垣知哉（シンガーソングライター）

平成 30 年度イベント・展示より

開催した展示＆イベントの中からピックアップしてご紹介します。

■Course

図書館劇場 XIII

図書情報館開館年の平成 18 年から続く、千田館長による連続公開講座「図書館劇場」。13 年目は「歴史文化を語る」をテーマに 6 回の講座を開催。千田館長とゲストが歴史にまつわる最新の研究や、大和路を彩る万葉の花、古事記の朗誦などの講演を行いました。講演以外のプログラムでは、フリーアナウンサー都築由美さんの朗読に加え、9 月開催の第 3 幕からは映像作家保山耕一さんによる映像詩の上映も始まり、ますます充実した内容として展開しています。

千田稔館長（写真左）（図書館劇場 XIII 第 1 幕）

＜開催日、テーマ、講師＞
□5/27[日] 第 1 幕：講演①飛鳥以前「なぜヤマトに王権が成立したか」千田稔、朗読『保田與重郎全集第 33 回』（講談社）より「山の邊の道と磐余の道」都築由美、講演②「シリア・パルミラ遺跡の変貌」西藤清秀（奈良県立橿原考古学研究所）
□7/22[日] 第 2 幕：講演①飛鳥以前「まほろばとヤマトタケル」千田 稔、朗読『飛鳥路』（人文書院）より「蘇我馬子の墓」（小林秀雄 著）都築 由美、講演②「小山田古墳の被葬者を考える」小澤 毅（三重大学人文学部文化学科教授）
□9/23[日] 第 3 幕：講演①飛鳥以前「雄略天皇ー国の形を作った天皇ー」千田 稔、朗読 × 映像詩　黒岩重吾著「ワカタケル大王」（文藝春秋）　都築 由美 × 保山耕一、講演②「大和路　万葉四季の花」　尾上 ツヤ子（万葉植物研究家、元奈良県自然環境保全審議委員）
□11/25[日] 第 4 幕：映像詩「古墳の美」保山 耕一（映像作家）、講演① 飛鳥以前「継体天皇の謎ーヤマトまでの足跡を検証する」千田 稔、朗読　野村万之丞著「マスクロード：幻の伎楽再現の旅」（日本放送出版協会）都築 由美、講演②「伎楽　仮面の来た道」佐藤浩司（天理大学人間学部名誉教授）
□1/27[日] 第 5 幕：映像詩 保山 耕一（映像作家）、講演① 飛鳥以前「欽明天皇と仏教伝来」千田 稔、朗読　前登志夫 著『病猪（やまじし）の散歩』より「倭に棲む」都築 由美、講演② 古事記朗誦やまとかたり 大小田 さくら子
□3/24[日] 第 6 幕：映像詩 保山 耕一（映像作家）、講演① 飛鳥以前「歌垣と政治の場」千田 稔、朗読　林芙美子著 今川英子編「林芙美子巴里の恋」（中央公論新社）より都築 由美、講演②「少年期の読書は人生を左右する。ー未知の世界に挑戦した人ー」泉森 皎（県立橿原考古学研究所特別指導研究員、公益財団法人由良大和古代文化研究協会業務執行理事）

■Exhibition+Market

妖怪マーケット

□企画展示「奈良の妖怪をウォッチ！」奈良〝出身〟の妖怪を、紙芝居作家なかたにゆかさんがユーモラスに描き、編集者でライターの小我野明子（こがのあきこ）さんが解説文を寄せた企画展示「奈良の妖怪をウォッチ！」を開催しました。描かれた妖怪は 12 種類。すべて大型印刷をしたのち、なかたにさん、小我野さん、企画協力の田畑陽子さん、図書情報館スタッフでクッション状に加工し、立体展示をしました。

□イベント「妖怪マーケット」2F エントランスに妖怪にまつわる新刊本や古書、絵本、雑貨、フードの店が並んだほか、妖怪グッズのワークショップや紙芝居、妖怪絵本の読み聞かせ、クイズラリーも行うなど、学んで楽しむ妖怪づくしの 2 日間となりました。

□講演・落語会「TALK&RAKUGO 妖怪サミット 2018」第一部は、妖怪文化研究家の木下昌美さんと落語家の桂文鹿さんが奈良の妖怪について語りました。司会は小我野明子さん。第二部では、桂文鹿さんが新作妖怪落語を披露しました。

□講演会「天狗と山伏」天狗といえば、鬼などと並んで日本の妖怪の代表格と言えます。諸説ある天狗の起源について、現役の大峯山伏である田中利典さんにお話をいただきました。

「奈良の妖怪をウォッチ！」のようす

＜企画展示＞
奈良の妖怪をウォッチ！
＜開催期間＞
8 月 21 日 [火]—9 月 2 日 [日]
＜場所＞
2 F エントランス

＜イベント＞
妖怪マーケット
＜日時＞
9 月 1 日 [土]2 日 [日]10:00—16:00
＜場所＞
2 F エントランス
＜企画協力＞
田畑陽子

＜講演・落語会＞
TALK&RAKUGO 妖怪サミット 2018
＜日時＞
9 月 1 日 [土]13:30—15:30
＜場所＞
交流ホール

＜講演＞
天狗と山伏
＜日時＞
9 月 2 日 [日]14:00—15:00
＜場所＞
交流ホール

■Course

明治 150 年記念講演会

明治改元（1868 年）から 150 年の節目を迎える平成 30 年、これを記念する「明治 150 年記念講演会」を開催しました。全国各地であらためて明治期を振り返る催しが展開されている中、当館は県内市町村と連携し、激動の時代の最中に奈良県で起きた出来事を題材に、現代につながる明治期について考える内容として取り組みました。

□第一回　吉野町

1 回目は吉野町にて開催。明治維新の神仏分離によって起こった仏教破壊運動「廃仏毀釈」と、修験道をテーマに行いました。

□第二回　十津川村

２回目は幕末から明治維新にかけて活躍した十津川郷士のふるさと十津川村で開催。会場の果無集落民家は世界遺産の熊野参詣道小辺路のかたわらに位置し、十津川の雄大な自然が体感できる立地。講演会終了後には会場から約 1 ㌔の古道を歩くウォークイベントも行いました。

□第三回　御所市

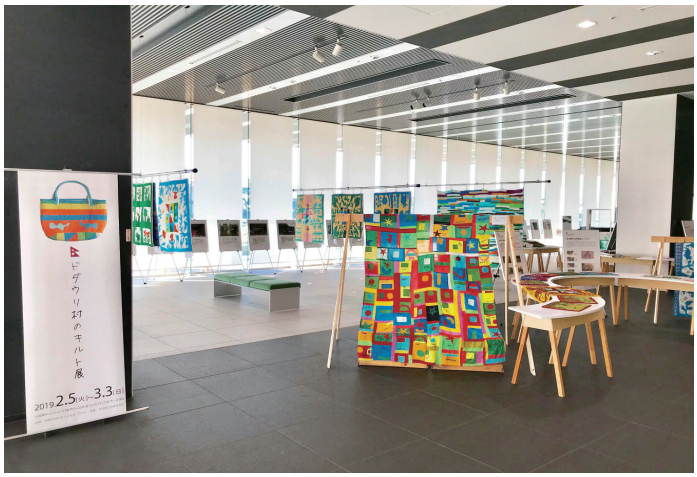
3 回目の会場御所市は、天誅組総裁吉村虎太郎が「天誅組の変」の際に着用したと伝えられる肌襦袢の寄託を受け、これを同市文化財に指定するなどの関わりがあります。講演では、虎太郎が負傷した際に応急手当を行った榎本住女医についてのエピソードなどが語られました。

＜開催日、場所、テーマ、講師＞
□9/8[土]、吉野町金峯山寺聚法殿吉野山ビジターセンター、講演①「飛鳥未曾有の法難「神仏分離廃仏毀釈」の嵐」 田中 岳良 師（金峯山修験本宗 芳山一佛堂 住職）、講演②「修験道の成立と道教」 千田 稔（奈良県立図書情報館長）
□11/17[土]、十津川村果無集落民家、○講演「明治維新の魁、十津川村」 杉井 辰彦氏（十津川村歴史民俗資料館）、○パネルディスカッション「十津川村と明治 150 年」杉井 辰彦氏（十津川村歴史民俗資料館）更谷 慈禧氏（十津川村長）千田 稔（奈良県立図書情報館長）、○ウォーク【希望者のみ・有料・15:30 〜 16:30】引率＆解説：十津川鼓動の会
□12/8[土]、御所市葛公民館、○講演「天誅組の変と御所の意外な関わり 〜名女医榎本住と大協力者 西尾清右衛門〜」中井戸隆氏（御所市教育委員会文化財課 課長補佐）、「幕末を生きた榎本住の足跡とその後」榎本泰久氏（医療法人榎本医院名誉院長）○パネルディスカッション　榎本泰久氏（医療法人榎本医院名誉院長）、中井戸隆氏（御所市教育委員会文化財課 課長補佐）、千田 稔（奈良県立図書情報館長）

■Exhibition+Market

ドダウリ村のキルト展

ネパール東部にある小さな村「ドダウリ村」。国際交流の会とよなか（TIFA）が 1994 年から村の人たちと交流を重ね、こどもや女性の生活を支援してきました。その一つが「ドダウリ村のキルトプロジェクト」。これまで、地域に伝わる伝統的な絵画手法ミティラアートの影響が感じられる作品が多数生み出されてきました。今回の展示では、ドダウリ村のキルト作品を紹介し、会期中の 3 日間に開催するアジアンマーケットにて作品の販売を行ったほか、アジアにちなむフードやスイーツ、雑貨も販売し大盛況となりました。
また、プレイベントも開催。2015 年のネパール大地震をテーマにしたドキュメンタリー映画「世界でいちばん美しい村」の上映会と、「ネパール民族楽器ライブ」を開催しました。



ドダウリ村のキルト展のようす

＜企画展示＞
ドダウリ村のキルト展
＜開催期間＞
2 月 25 日 [火]—3/3[日]
＜場所＞
２F エントランス

＜関連イベント＞
アジアンマーケット
＜開催日、時間＞
2 月 9 日 [土]、10 日 [日]、11[月祝]
10:00—16:00
＜場所＞
２F エントランス
＜企画協力＞
アジアンマーブル

＜プレイベント①＞
上映会「世界でいちばん美しい村」
＜開催日、時間＞
2 月 2 日 [土] 11:30—13:30
＜場所＞
交流ホール

＜プレイベント②＞
ネパール民族楽器ライブ
＜開催日、時間＞
2 月 2 日 [土] 15:00—16:00
＜場所＞
交流ホール
＜出演＞
ラム・マハラジャン（バンスリ奏者）
藤澤幸生（タブラ・打楽器奏者）

平成 30 年度イベント・展示より

開催した展示＆イベントの中からピックアップしてご紹介します。

■Exhibition+Market

木の手しごと
奈良県立高等技術専門校修了生展

奈良県立高等技術専門校（磯城郡三宅町）は、学校を卒業し新たに職業に就かれる方や、再就職を希望している方が、職業に必要な技能・知識を学ぶ、職業能力開発促進法に基づく公共職業能力開発施設です。

「木の手しごと」では、同校の家具工芸科を卒業し、現在県内で活躍中の９人が、イス、テーブル、スツールなどの作品を展示しました。

会期最終の土日には、展覧会参加作家が手がけた家具と雑貨の販売会「木の手しごと市」を開催。また、同日、館正面玄関付近では 4 回目となるさくらマルシェ（ 企画協力：ミジンコブンコ）を行い、古書や雑貨、奈良県産の素材を使ったフードやスイーツが販売されました。

展示のようす（写真２枚とも）

＜企画展示＞
木の手しごと　奈良県立高等技術専門校修了生展
＜開催期間＞
3 月 19 日 [火]—3/31[日]
＜場所＞
２F エントランス
＜参加作家＞
・木工 暮しの道具 Puja 大竹奈々（奈良市）・furniture factory store WEATHER REPORT 城岡直樹（宇陀市）・木の家具工房 CORE WORKS 鈴木健司（天理市）・naice 中田真太郎（奈良市）・木工ジョニー　細川尋勧（奈良市）・MURAO 村尾守（十津川村）・木工 森 mori 森幸太郎（吉野郡下市町）・白い犬　山本直美（川上村）・十八製作所　和田トモコ（橿原市）

＜関連イベント＞
木の手しごと市
＜開催日、時間＞
3 月 30 日 [土]、31 日 [日]10:00—16:00
＜場所＞
２F エントランス

（伊藤　享子）

県立図書情報館入館者 700 万人達成！
平成 30 年 8 月 29 日 [水]

県立図書情報館では、８月２９日（水）に入館者数が７００万人に達しました。平成 17 年 11 月 3 日の 開館から 3,739 日目、平成 30 年 11 月 3 日に迎える開館 13 周年に先立つ達成となりました。

奈良県立図書情報館報　芸亭
（うんてい復刊）　第 11 号

発行日　平成31年3月31日
発行人　千田　稔
発行所　奈良県立図書情報館
〒630-8135　奈良市大安寺西 1 丁目 1000
TEL.0742-34-2111　FAX.0742-34-2777